

# 電 気 技 術 史

The History of Electrical Engineering

Newsletter

平成 14 年 2 月 20 日発行

(社)電気学会 電気技術史技術委員会

## CONTENTS

新副委員長挨拶

- 副委員長に就任して -  
東京電機大学教授 柳父 悟

P.1

10 周年を祝う  
地球技術研究所 荒川 文生 p.2

「電気の史料館」のオープン  
東京電力 坂本 幸治 p.2

INFORMATION p.4

ホームページ開設のお知らせ 他

### 新副委員長挨拶

- 副委員長に就任して -

東京電機大学教授 柳父 悟



東京電機大学の柳父と申します。実は東京電力(株)の三井最高顧問から、お前がやれといわれて担当することになりました。はなはだ自主性に欠けますが、正直なところ自分は前に進むことばかり考えていましたので、電気技術史研究会は何をやるところか良く分かりません。しかし、よく考えてみると歴史の後を振り返ることは色々な面で大変重要なことと現在考えています。そこで第一に最近自分の専門分野の歴史を纏めて見ましたが、勉強すればするほど面白いと思っています。長い間綿々と研究が行われ、難しさを克服して現在に至っています。また岡村先生は歴史

の正確な記述は大変難しいといわれていたのも実感として分りました。

しかし電気技術史委員会の活動範囲を見ると極めて多岐にわたり、それぞれの分野で重要さが異なると思っています。従って先ずは末松委員長はじめ先輩方々のご指導のもとで活動し、自分なりに今後やるべきことを考えてみたいと思います。今まで遠くからこの委員会を見ていましたが、中で見るとその活動は大変幅広く、今まで多くの仕事がなされてきました。単に電気の歴史を語るだけでなく、海外活動、多くの出版物、聞き取り調査、データベースなど多くの活動を行っています。

現在、私が考えていることは次の通りです。海外の学会では歴史の扱いが大変重いということ。多くの寄付金を募り活動を活性化しています。本技術委員会も負けず活動を活性化しなければならないと思います。現在は委員の方の献身的な努力のもとに活動が続けられていますが、日常的に行われなければならないし、まだやっていない活動もやるべきだと思います。あまり日本の学界という意識を持たず、世界と活動することも重要です。

また日本では電気の導入をはじめて以来、120年以上の活動をやってきましたが、それら

を風化させるのではなく、記録に留めることも大切だと思います。先輩たちに若い人は学ばねばなりません。是非この委員会に参加され

る方々は歴史を纏めるだけでなく、若い人達を啓蒙して頂きたいと願っています。日本の不況回復のヒントになると思います。

## 10周年を祝う

記念懇親会実行委員長 荒川 文生  
(地球技術研究所 研究所長)

### 1. 懇親会

2001年10月3日(水)アルカディア市ヶ谷において、電気技術史技術委員会設立10周年を記念する懇親会が、岡村総吾先生他のご来賓を含め約50名の参加を得て開催されました。1988年に電気学会が創立100周年を祝ったことを契機に始められた若手勉強会から数えて13年目の意義ある会合となりました。

### 2. ご挨拶

司会の大来雄二委員の紹介で開会のご挨拶に立たれた末松安晴委員長は、早逝された大越孝敬初代委員長を偲びながら、委員の熱心な活動が組織的な研究の成果をもたらしたことを指摘されるいっぽうで、広報活動の不足に言及されました。続いて、設立10周年の記念行事を提案された三井恒夫前委員長は、電気学会の試行制度におけるA部門長として委員会の設立を指導されたことを踏まえ、6年間の委員長活動を振り返り、その活動に平成13年電気学会優秀技術活動賞特別賞が授与されたことを喜ばれました。

### 3. あゆみ

懇親会は、和気藹々の雰囲気の中で、原島文雄学会会長や村岡泰夫専務理事、成田賢仁・森英夫両調査専門委員長等を囲む談論風発の輪が広がりました。そのなかで、委員会関係者の力作による「14年のあゆみ」を鈴木浩元委員が軽妙な語り口で紹介し、満場の喝采を受けられました。その内容をもとにした委員会の活動状況が、柳父悟副委員長のご提案で、電学誌(本誌)平成14年7月号(6月20日発行予定)に掲載・報告されるべく準備されています。

### 4. 今後

申すまでも無く、技術史の研究は新たな技術の創造をその目的のひとつとしています。また、その研究の成果である日本の技術者のアイデンティティ(自己確認)をもととして、国際的な広がりの中で組織的な研究活動が進められる事も重要です。この観点に立ち、電気技術史技術委員会設立10周年記念懇親会を契機として、若い技術者が確固とした目標と新鮮な意欲とを持って参加できるような、委員会の新たな展開を図ろうとする決意が、当日の参加者全員によって持ち帰られたことでしょう。

以上

## 「電気史料館」のオープン

東京電力 坂本幸治

2001年12月15日、東京電力はこれまでに収集してきた電力技術や電力設備、電気

事業に関連する史料を広く一般の皆様にご覧いただくため、「電気史料館」をオープンした。この史料館は「明治時代より引き継がれてきた”電気作りの精神”を現代に伝え、次の時代に語り継いでいく」ことを基本コンセプトとしている。

日本の近代化に果たしてきた電気の役割と先人たちの苦労や知恵について、迫力ある実物展示、ビジュアルな説明パネル・映像、さらに、専門家による分かりやすい案内解説によって、ご理解いただくことを目指している。

主要な展示物は、我が国初の一体展示となる旧千葉火力発電所 1号タービン・発電機（1957年）、運転開始当時東洋一の出力を誇った信濃川発電所水車発電機（1939年）、従来の木柱に変わって鉄塔が初めて全面的に採用された塔ノ沢線送電鉄塔（1908年）など。電気史上の記念碑的な実物機器が一堂に会する。

また、付属施設「電気の文書館」では、江戸末期の貴重図書から現在の公刊図書まで、約4万点の書物や映像史料などを収蔵

し、主に専門家向けに公開している。

< 電気の史料館のご案内 >

所在地：横浜市鶴見区江ヶ崎町 4-1

東京電力(株)技術開発センター隣接

(下記の地図をご参照ください)

交通：無料シャトルバスを運行

(JR川崎駅西口から乗り場先の一般乗降場)

開館時間：10:00～18:00

(入館は17:30まで)

休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌日)

および年末年始

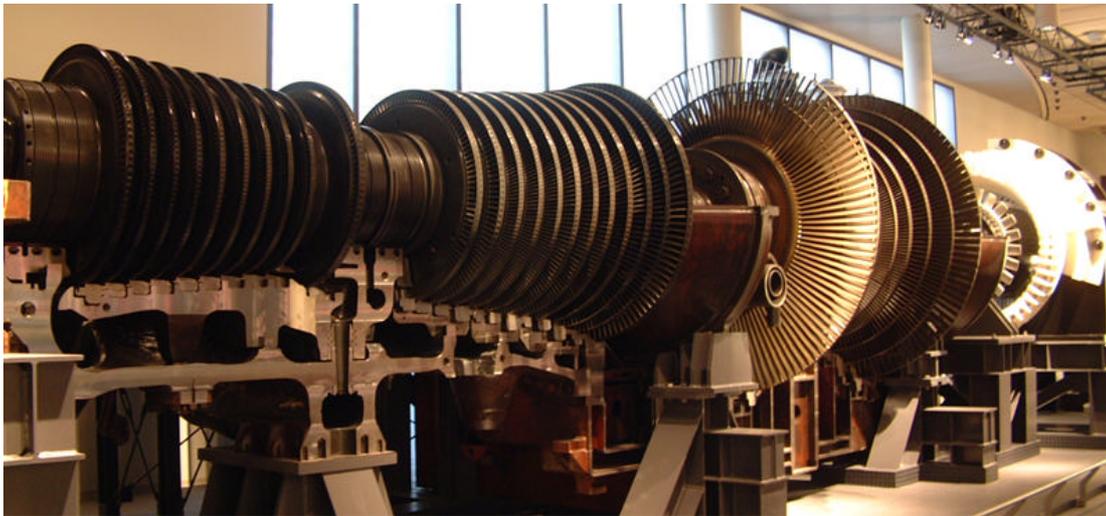
入館料：大人500円、中・高校生300円、小学生200円(団体割引あり)

電話：045-613-2400

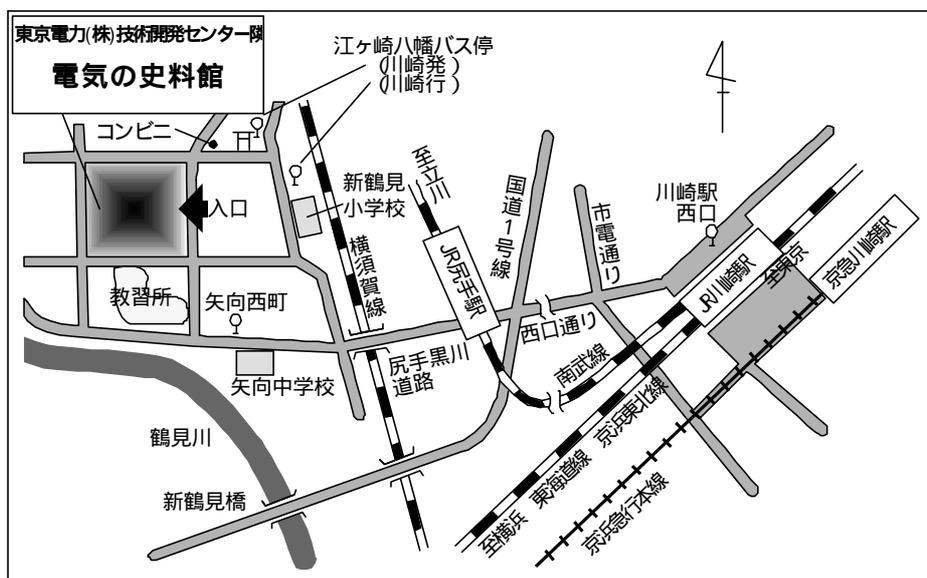
URL：<http://www.tepco.co.jp/>

文書館の利用には事前予約が必要。

(9:30～17:00、土・日・祝日、年末年始は休館)



旧千葉火力発電所 1号タービン・発電機



## INFORMATION

### 第 2 9 回電気技術史研究会のご案内

日時：2002 年 2 月 20 日（水）10：30～15：30  
場所：東京電力（株）技術開発センター  
（電気の史料館隣接）  
プレゼンテーションルーム

（神奈川県横浜市鶴見区江ヶ崎町 4-1、JR 東海道線・京浜東北線「川崎駅」下車、西口より、臨港バス川 54 系統（58 番乗り場）「元住吉」行き「江ヶ崎八幡」下車 徒歩 3 分、Tel.045-613-2400、詳細は <http://www.tepco.co.jp/rd/rdplan/common/center/center-j.html> をご参照下さい。）

協賛：誘電・絶縁材料研究会  
テーマ：電力技術史、電気技術史一般  
座長：渡邊政美（三菱電機）

#### プログラム

10:30～12:30

HEE-02-1 電力システムのシミュレーション技術の変遷  
後藤益雄（名大）

HEE-02-2 遮断器の歴史と今後の課題  
柳父 悟（電機大）

HEE-02-3 スミソニアン・インスティテューションの歴史（ ）

松本栄寿（横河電機）  
高橋雄造（農工大）

HEE-02-4 スミソニアン・インスティテューションの歴史（ ）

松本栄寿（横河電機）  
高橋雄造（農工大）

13:30～15:30

HEE-02-5 奈良時代の雷と雷雨記録について  
杉沼義隆

HEE-02-6 平安時代最前線の雷記録  
杉沼義隆

HEE-02-7 丸五十六年目の終戦回想記から解明された電波伝播の戦時研究体制  
小泉直彦

HEE-02-8 日本における第 3 世代コンピュータの開発について  
山田昭彦（国立科学博物館）

研究会終了後、「電気史料館」の見学会（開館時間 10:00～18:00）を予定。

### ホームページ開設のお知らせ

すでにお知らせいたしましたが、先々号より電気学会のホームページで紹介致しております。パソコン等をお持ちの方は、是非ご利用いただくようお願いいたします。

なお、郵送による配布も行いますので、希望される方は下記連絡先までお願いいたします。  
（電気学会ホームページ）

<http://www.iee.or.jp/fms/tech/ahee/index.html>

（連絡先）

〒305-8568

茨城県つくば市梅園 1-1-1

産業技術総合研究所中央第 2

電力I研グループ 超電導応用グループ

樋口 登

電話：0298-61-5815

FAX：0298-61-5189

E-mail：n-higuchi@aist.go.jp

発行者	電気技術史 第 26 号 （社）電気学会 電気技術史技術委員会
編集人	委員長 末松安晴 副委員長 柳父 悟 永田宇征、蘆立修一、 坂本幸治、樋口 登 〒102-0076 東京都千代田区五番町 6-2 HOMAT HORIZONビル 8F
発行日	平成 14 年 2 月 20 日 禁無断掲載